

2019. 11. 6

畑 啓之

SUBARU 株の業績概要発表を受けての瞬間的急落 これは情報を読みこなし結果か？

この SUBARU 株の瞬間的急落は実に 140 円、率にして 4.45%である。大暴落と言ってよいほどの下落であるが、不思議なことに 1 時間程度で元の価格まで戻している。13 時ちょうどに一体何があったのか。次ページに示した「2020 年 3 月期 第 2 四半期連結業績の概要」の発表がその原因である。



前回（2019 年 8 月 5 日）と今回（同 11 月 6 日）の通期連結業績見通しを比較すると、

営業利益	2600 億円	→	2200 億円
税引前利益	2700 億円	→	2200 億円
当期利益	2100 億円	→	1630 億円

といずれも減額している。これを受けての大暴落と思われる。しかしながら、この業績見通しの前提となる想定為替レートも変化し、今回は業績を厳しく（安全サイドで）算出している。この見直しが利益にどの程度の影響を与えたかは別途確認する必要がある。

#### 輸出企業の想定為替レートの見方

輸出企業の場合、想定為替レートより実勢為替レート（市場で実際に取引されている為替レート）が、円安になれば為替差益が発生して収益が押し上げられ、円高になれば為替差損が発生して収益が悪化します。

輸出企業は、想定為替レートを控えめに出す傾向があります。これは、為替の上振れ余地を残しておくことによって、為替益への期待を持たせておき、株価の下値を限定的にするためです。

<https://kabusoba.stars.ne.jp/morekabushiki43assumed-exchange-rate.html>

結論的に言ってしまうと、自動取引が主導する株式取引においては、売りが売りを呼び 140 円という大暴落が極めて短期間（2 分間で 110 円）の内に起こった。いわゆるパニック売りである。しかしながらよく見てみると、利益のベースとなる想定為替レートが厳しく設定し直され、その結果利益が圧縮されていることが分かり、株価は徐々に元の水準に戻ったということではなかろうか。

あるいは、株価に変動があって初めて利益発生チャンスが訪れる。この暴落は意図的に作られたものである可能性もある。誰が得をして誰が損をしたのか？

2019年11月6日

## 2020年3月期 第2四半期連結業績の概要

### <2020年3月期 第2四半期業績:連結売上収益>

全世界販売台数は、前年同期比4.1%増の504千台\*1となりました。

海外販売では、米国市場において新型フォレスターや2018年に販売を開始したアセントが好調に推移したことなどにより、同4.5%増の436千台となりました。国内販売では、新型フォレスターおよび2018年10月に「e-BOXER」\*2搭載グレードを追加発売したSUBARU XVなどが寄与し、同1.6%増の68千台となりました。

連結売上収益\*3は、販売台数の増加などにより、同7.7%増の1兆6,057億円となりました。

当社は当期より、従来の日本基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

そのため、比較対象となる2019年3月期 第2四半期連結業績および通期連結業績(日本基準)を、IFRSに従って再計算した上で、比較・分析をしています。

なお、全世界生産台数は同1.3%増の498千台となりました。

国内生産は、フォレスターが増加したことにより、前年同期を上回りました。

海外(米国 SIA\*4)生産については、アセントおよびインプレッサが増加しましたが、レガシィおよびアウトバックがモデル切り替えの影響で減少したことなどにより、前年同期並みの水準となりました。

### <2020年3月期 第2四半期業績:連結損益>

連結損益については、前年同期に比べ、販売台数の増加および販売奨励金の抑制、品質関連費用を含む諸経費等ならびに研究開発費の減少などにより、営業利益は前年同期比68.1%増となる948億円になりました。税引前利益\*5は同54.0%増の931億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益\*6は同58.4%増の683億円になりました。

### <2020年3月期 通期連結業績見通し>

通期連結業績見通しについては、前回(2019年8月5日)発表値\*7に対して、販売奨励金の抑制などによる改善を見込むものの、品質関連費用を主因とする諸経費等の増加、想定為替レートの見直し(円高方向)や台風19号による操業影響などを織り込むことから、営業利益2,200億円(前年同期比21.1%増)、税引前利益2,200億円(同18.3%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益1,630億円(同15.3%増)にそれぞれ修正します。

なお、全世界販売台数、連結売上収益は、前回発表値から変更ありません。

また、通期連結業績見通しの前提となる為替レートは¥107/US\$、¥119/EUROです。

#### ※ 前回(2019年8月5日)公表の通期連結業績見通し\*7

全世界販売台数 1,058千台

連結売上収益 3兆3,100億円

営業利益 2,600億円、税引前利益 2,700億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 2,100億円

想定為替レート ¥110/US\$、¥120/EURO

\*1: IFRS 任意適用により、日本国内のみ売上計上基準が変更。

日本基準: 自動車の登録日に売上計上 IFRS: お客様への納車日に売上計上。

\*2: SUBARUらしい走りの愉しさに加えて環境にも配慮した、水平対向エンジンと電動化技術を組み合わせた新開発パワーユニット

\*3: 日本基準における「売上高」を「売上収益」と表示。

\*4: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

\*5: 日本基準における「税引前利益」を「税引前利益」と表示。

\*6: 日本基準における「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を「親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益」と表示。

\*7: 期初(2019年5月11日)発表値と同一。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。